

生活部 研修報告

部長 後藤洋子(佐渡市立行谷小学校)

1 研修の方針

学習指導要領の趣旨をふまえた指導のポイントを知り、実際に体験や演習を通して、生活科の授業で活用できる研修をする。

2 活動の概要

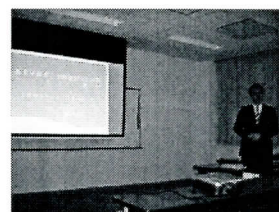
(1) 自然教材研修会

- ① 日時 平成25年8月9日(金)
- ② 会場 佐渡市立高千小・中学校周辺
- ③ 内容 活動や体験を通しての植物観察
- ④ 講師 佐渡市立高千中学校 教諭 遠藤 満久 様



(2) 生活科研修会

- ① 日時 平成25年11月13日(水)
- ② 会場 佐渡市立金井小学校
- ③ 内容 生活科授業についての演習及び教育課程研究集会伝達講習
- ④ 講師 阿賀町立三川小学校 教頭 藤崎 善之 様
- ⑤ 演題 「低学年教育の中核を担う生活科～パート2～」
- ⑥ 教育課程伝達講習
教諭 金子 君代(松ヶ崎小学校)



3 研修を振り返って

遠藤講師の研修は、実際に歩いて植物を五感で感じたり、本や資料を見ながら特徴を見つけたりして植物を知るものであった。植物の名前の由来が「におい」「形」等からきているものもあり、子どもの活動に生かせる視点を考えながら取り組むことができた。

藤崎講師の講演は、「体験の価値」について具体的に教えていただいた。

- ① 活動が主体的である。
- ② 学習が連続的サイクルである。
- ③ 「繰り返し」が新たな気づきを生んでいる。

体験を通して学ぶ子どもの姿とは、活動中に「困り感を改善」しようとするものや、もっと周りの人を楽しませたいなどという「願い」が生まれる。その際の教師の支援・指導が大事であり、上記のような「活動の繰り返し」が自信や満足感をもち、自己肯定感へつながることを教えていただいた。また、「子どものやる気を引き出す言葉がけ」についても具体的に教えていただいた。

参加者からは次のような感想が聞かれ、有意義な研修となったことが分かる。

- ・授業の中で子どもたちから「これは何。」と聞かれる場面がたくさんあるが、すぐに答えられませんでした。実際に植物を見ながらの説明は、大変勉強になりました。
- ・普段あまり聞くことができない生活科の講演をたくさん聞くことができ、よかったです。気づきの質を高めることがなぜ必要なかが分かりました。

また、次のように、参加者自身の授業作りについての課題を明らかにすることもできた。

- ・ただの植物観察でなく、活動の内容を考えて取り組まなければいけないと思いました。
- ・生活科のことがよく分からないまま、活動・体験後、振り返りカードを書かせる活動が多かったが、的確な教師の支援・指導を入れ、子ども自身が活動を繰り返す中で、自信や満足感をもてるような活動を展開しなければいけないことが分かりました。

育てたい力を明確にして、今年度の研修を、日々の授業実践に生かしていきたい。